宇都宮市におけるSDGsの理解促進について

宇都宮市
宇都宮市SDGs人づくりプラットフォーム運営本部

５班　コミュニティデザイン学科　田代凪
建築都市デザイン学科　生畑目敦也　平田菜々花
社会基盤デザイン学科　柳村陸　渡邉優作

01背景

令和2年度に行われた第53回市政に関する世論調査より、SDGsの認知度については、「SDGsについて全く知らない」が 70.6%と最も高く、次いで「SDGs という言葉を見た（聞いた）ことはあるが，内容は知らない」12.5%、「SDGsについて内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」6.6%と続いている。(図１)

また、年代別に見ると10代の認知度が最も高く、最も低いのは70代以上である。

属性別に見ると学生の認知度が最も高く、最も低いのは「無職」次いで「家事に専念している主婦、主夫」であった。(図１)

このことからSDGsを知る機会が多い学校を起点としながら、家庭（主婦、主夫層）へと展開できるような普及啓発活動が必要であると私たちは考えた。

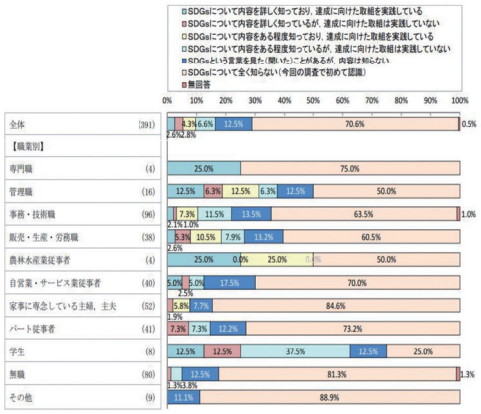

図１　性別・年齢別／職業別にみたSDGsについての認知度
（第53回宇都宮市世論調査報告書より）

02目的

SDGsの理解促進をはかるため、SDGsを知る機会が多い学校に焦点を当て、学校→子ども→家庭へと展開できるような普及啓発活動を行うとともに、幅広い世代に普及できるよう普及手段も検討が必要と考えた。

そこで、SDGsについて意識調査と分析を行い「SDGsを知らない人に知ってもらう」「知っている人に対し、さらに内容を知ってもらう」ことを目指した、SDGsを“知る”ツールと、知ってから深めるための“取り組む”ツールの作成を本プロジェクトの目的とする。

03方法

宇都宮市SDGs人づくりプラットフォームによる岡本小学校でのSDG s 出前講座の現地調査と、出前講座を受けた小学生の保護者を対象にSDGsの意識調査のアンケートを実施した。

岡本小学校でのアンケート結果をもとに、SDGsを“知る”ツールとして「SDGsMatch」、知ってから深めるための“取り組む”ツールとして「SDGs目標シート」を作成した。

作成したツールを小学生の子どものいる家庭に実際に使用していただき、アンケート調査を実施し、調査結果をもとに作成したツールの改善点を検討した。

04分析結果

対象：出前講座を受けた岡本小5年生児童の保護者38人　　回答人数　26人（回収率68%）

回答者属性　女性：96.2%　男性：3.8%　　30代：42.3%　40代：50.0%　50代：7.7%

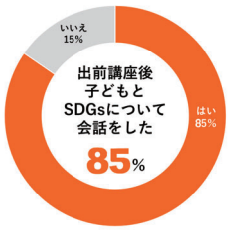

図２　アンケート結果①

⇒子どもから保護者にSDGsの知識が共有されている

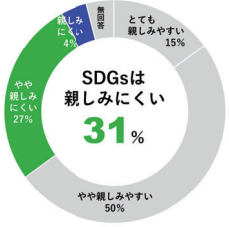

図３　アンケート結果②

⇒約3分の1がSDGsに対して、親しみにくいイメージがある

図４　アンケート結果③

⇒体験しながらSDGsを知るツールのニーズが高い。

05提案

私たちの班では、SDGsを“知る”ツールとして「SDGsMatch」、知ってから深めるための“取り組む”ツールとして「SDGs目標シート」を作成した。

これらを用いてSDGsを“知る”→SDGsに“取り組む” 流れをつくることができると考えた。

知るツール
SDGsMatch

図５　実際にプレイしている様子

SDGsMatchは、山札に記載された社会問題について、それを解決するための身近な取組を手札から探し、山札と手札とで、関連するSDGsのアイコンがそろっている数を競うゲームである。身近な取組は小学生でもわかりやすく、大人でもSDGsに対するハードルを下げることに繋がると考えた。

取り組むツール
SDGs目標シート

図６　SDG s 目標シート

SDGs目標シートは、自分たちで目標を考え、意識的に行動できるようになることを狙いとしている。

また１stサイクルのアンケートよりカラフルな色遣いが子どもたちの関心を引くというデータがあるため、子どもたちが自分で色を付けられるという工夫をした。

06テスト使用・改善案

５つの家庭で、私たちが提案したツールのテスト使用およびアンケートにご協力頂いた。
対象： 6~17歳の子どもを持つ５つの協力家庭

回答者属性　30代男性　1名　40代女性　4名

表１　SDGsMatchプレイ後アンケートの一部

質問		1	2	3	4	5
親しみの変化	親しみやすくなった	○		○	○	○
	変化なし		○			

表２　目標シート使用後アンケートの一部

質問		1	2	3	4	5
親の行動の変化	あった			○	○	○
	なかった	○	○			

⇒SDGsMatchによるSDGsへの親しみやすさ向上や、目標シートによる行動変容が見られた。よって、提案したツールはSDG s に対するハードルを下げることに貢献できる。

また、地域パートナーのテスト使用後には、採点のしづらさや記載内容とSDGsのゴールの対応のわかりづらさについて指摘があり、図7の改善案を提示する。

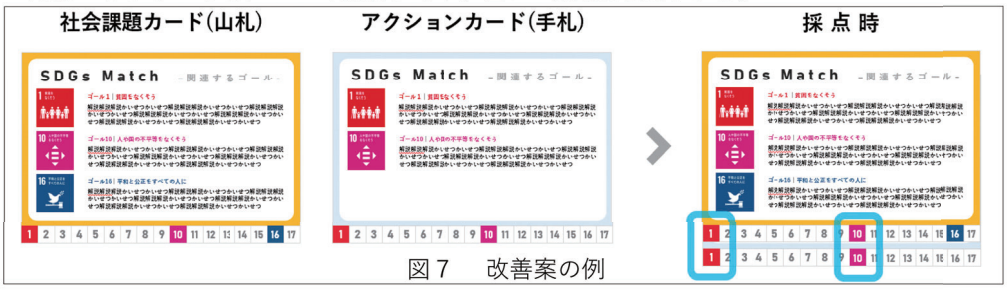

図７　改善案の例